

■（６３）カラーと白黒はどうやって決まるの？

三連休の初日の朝、被災地取材の拠点・盛岡市は一面の銀世界となった。本格的な積雪は今冬初めて。この風景を新聞で伝える時、印刷がカラーか白黒かどうかで撮影方法まで変わる。難しいのは白黒。コントラストを意識してカメラを構えなくてはならない。

「紙面がカラーでなくて残念」と読者から手紙をいただいた。岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」の上空に流星群が流れる構図の写真を載せた時だった。岩手で配られた新聞は残念ながら白黒だったからだ。カラーで印刷するかどうかは新聞全体のバランスで決まる。理科の授業でも教えると思うが、カラーは三原色の組み合わせで表現する。同じ紙面を３回刷ることになる。印刷にかかる時間は単純計算で３倍、インクも多く使う。早朝に新聞を配るため、ぎりぎりの時間で作業している新聞社にとって、特に時間の問題は大きい。このため全体でどのページを優先してカラー印刷するかは詳細に検討して決める。

とはいえ、記者は自分の写真に誇りを持っている。刷り上がった新聞を見てははがゆい思いをすることも少なくない。最近の救いはデジタル新聞。鮮やかカラーばかりだ（山）